

長明神たけのみやうじんの社は二尊院大門そんゐんだいもんのまへなる祠なり、祭る所は檀林皇后だんりんくわうぐうの髦たけなりといひ伝ふ。又日裳宮ひものみやは此南二町ばかりにあり、皇后の緋袴ひばかまを祭るといふ。裏柳うらやなぎの社は大門のひがし中院町なかのゐんにあり、上衣の散りし所なりとぞ。檀林皇后嘉智子だんりんくわうぐうかちしは嗟峨さがが天皇てんわうの寵愛ちゆうあいにして、西施毛せいしもうしやう■にも劣ぬ美人なり、薨じ給ふ後、恋慕愛執の思ひを離散させんため、遺命により嗟峨さがが野のの原はらに捨る。其落散る所にやしろを建て祭るなりとぞ。